

## 特別活動部

部長：松岡 修      副部長：西岡 大

### (1) 今年度の目標

- ① 生徒会の自主的、自律的な企画・運営
- ② ホームルーム委員会，自由テーマのホームルームの活性化
- ③ ボランティア活動の活性化
- ④ 部活動を通して，規則を守り礼儀正しく，お互い協力し助け合う豊かな人間の形成

### (2) 主な取り組みの計画

- ① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
  - ア 大勢の新生生の自由役員獲得を目指す
  - イ 教員・一般生徒との連絡を密にとる
  - ウ 生徒会室の整備とデータ・資料の整理
- ② 自由テーマのホームルームの活性化に向けて
  - ア 事前指導の充実
  - イ ホームルーム委員の運営力育成に向けて担任との連携強化
- ③ ボランティア活動の活性化に向けて
  - ア 丸養交流会の事前研修・準備・周知の充実，
  - イ 地域のボランティア活動（募金等）への積極的な参加をめざす
- ④ 規則を守り礼儀正しく，お互い協力し助け合う豊かな人間の形成に向けて
  - ア 校則や集団の決まりを守らせ，所属感や連帯感を身につけさせる
  - イ 挨拶や美化活動等を，自主的，自発的に行う態度や習慣を身につけさせる

### (3) 成果

1. 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
  - ア 年度当初は1，2年生合わせて53名の生徒会役員・自由役員で活動していたが，現在は43名（1年生15名）で活動している。大幅に数が減少している原因は、コロナウイルス感染症対策のため、行事が大幅に削減され、生徒会の活躍の場を目にする機会がなく、その活動内容や意義を知る機会が少なかったためと思われる。
  - イ 生徒への連絡に関しては，各周知会で連絡事項の徹底をお願いした。生徒会連絡黒板を有効に活用した。また，教員への連絡は担当者を決め，必ず事前に相談するように促した。職員全体には，会の実施などについて，できるだけ日報を通じて周知するようにした。
  - ウ 生徒会室の美化に努め，道具や備品の整理や行事ごとの資料の整理を促した。
2. 自由テーマのHRの活性化に向けて
  - ア ホームルーム委員会を開き，充実したホームルームの運営について事前指導を行った。
  - イ 全クラスにホームルーム実施記録簿の年間計画を作成させ，担任とホームルーム委員がどのような運営を目指しているかを確認し，係りの教員から指導助言を行った。

### ③ ボランティア活動の活性化

ア 例年は香川丸亀養護学校との交流会については講義や昨年の映像による事前研修を行ったうえで参加するなど、社会福祉について学ぶきっかけとなっていたが、今年度は交流会が中止となり実施できていない。人権講演会の講師のサポートなどは実施できた。

イ 各種募金活動において、ふれあい委員がクラスに周知・取りまとめを行った。一般生徒のTPの活動で、ふれあい委員が募金活動の周知に協力したのもあった。その他、ボランティアの募集を随時案内した。なお、今年度はお城祭りなど、多くのイベントが中止となっており、ボランティアの募集数も少なかった。

### ④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間

ア 休日等における登下校時の服装や挨拶（部内、校内、校外）が不十分であった。

### （４）課題と次年度に向けての改善策

① ア 1年自由役員の数が大きく減少した。生徒会の仕事に関わる魅力を伝えていくために、2年生の働きに期待するとともに、今年行われなかった行事については、担当教員を中心に、作り直す部分も必要になってくる。1年自由役員が仕事の全体像を掴み、パートリーダーとしての力量を備えられるように2年生が中心となり指導していく。

イ 定期的に役員会を開き、意思統一を図る。運動会や斯文祭などの学校行事を行えなかったため、それらの引き継ぎは難しいと思われる。そこで、担当教員を中心に、ある程度の導きが必要になる。計画立案の段階でこれまでの反省を踏まえたうえで、早めに担当教員の指導や助言を仰ぎながら、よりよい企画や行事になるように取り組ませる。また、各クラス・各部活動の準備が円滑に進むように工夫させる。

ウ 資料の整理とデータの保存を徹底させる。データベースと紙ベースの両方を整理して保存させる。定期的に物品の管理を行わせる。

② ア 自由ホームルームの中で積極的にディベート活動が行われるよう、研修ホームルームで使われたワークシートや、プレゼンテーションの方法などを、HR手帳等に掲載する。

イ テーマに偏りがないうよう、ホームルーム委員会で事前指導を行う。

③ ア 今後も事前研修会を積極的に取り組ませたい。また、斯文祭での展示内容を工夫し、一般生徒の特別支援学校や社会福祉の理解へのきっかけとなるように意識したい。

イ ボランティア募集の案内については、個人参加のものも積極的に周知したい。募金活動では、ふれあい委員に準備から取り組ませて、ボランティア活動活性化の意識をもつよう促したい。

④ ア 服装については顧問と連携し、指導していきたい。挨拶については、自主的、自発的に考えさせ、生徒自身がその意義について理解し、挨拶できるような指導を徹底していきたい。次年度は、生徒が主体となって目標や実践事項を決め各部への周知や呼びかけなどを行わせたい。